矯 正 科

矯正手術ニ於ケル光線療法ノ價值 The role of actinotherapy
in Orthodontia, by F. Talbat, The British Dental Journal 1931.
Vol. 2. II. p. 583.

Badeock 氏ハ曾テ Nord 氏 (Holland) ノ講演ニ對スル討論中ニ於テ「或ル種ノ矯正装置 (Expansion plate) ニ依リテ顎ヲ一定度マデ擴大スルコトハ頗ル容易デアルガ一度ビ固定装置ヲ除去スレバ擴大セラレタル顎ハ徐々ニ矯正前ノ状態ニ復歸セントスル傾向ヲ有スルモノデアル、從ツテ矯正手術ノ豫後ガ良好ナル場合ハ固定装置ヲ除去スル以前ニ既ニ顎ガ正常ナル發育ヲ營ミ得ル状態トナリ且ツ移動セラレタル齒牙ノ周圍ニハ新生骨ノ増殖ヲ認メ得ラル、時ノミニ限ラレタルモノデアル」ト述ベテタル。

實際問題トシテモ矯正手術ノ豫後ガ良好デアルカ否カト云フコトハ其レニ用ヒシタ装置ノ如何ニ依リノデハナク寧ロ顎ガ正常ナル發育ヲナシ得ル状態トナツタカドウカト云フ事デ決定セラル、コトハ矯正醫家ノ等シク認ムル所デアル。著者ハ此ノ點ニ留意シテ顎ノ正常ナル發育ヲ促進セシムルタメニ矯正手術中ニ光線療法ヲ併用スルコトヲ稱用シテタルノデアル。尙ホ「ヴィタミン」D ト紫外光線ノ照射トハ共ニ健康ナル骨ノ發育ヲ増進セシムルニ非常ナル效果ヲ有スル事ハ既ニ Huldshinsky (1918, Berlin) ニ依リテ實證セラレ且ツ一般ニモ此ノ事實ハ認メラレテタルノデアル。著者ハ次ニ述ブル數種ノ不正咬合ニ對シテハ特ニ骨ノ新生増殖ヲ促進セシムル必要ガアルト力説シテタル。

- a) 下顎骨後方ノ發育不良ニ基因スル下顎ノ遠心咬合。
- b) 齒穹ノ側方擴大ニ依リテ治療ス可キ V 字形齒穹及ビ鞍狀齒穹。
- c) 遺傳ニ關係アルト思惟セラル、不正咬合デアツテ手術終了後固定装置ノ長期效果ヲ必要トスルモノ。

d) 前齒部ニ咬合板 (Bite plate) ヲ使用シテ下顎骨上行枝ノ垂直發育ヲ促進セシムル必要アル場合等ヲ舉ゲ其ノ實際方法トシテハ (1) 「ヴィタミン」A 及ビ D ヲ含有スル肝油, Radiostoleum, Metatone 等ヲ與フルコト及ビ紫外光線ノ照射。

(2) 「ヴィタミン」D 含有ノ照射牛乳 (irradiated milk) 其ノ他「オリーブ」油, ergosterol, ostelin, vigantol 等ノ脂肪含有食物ヲ與フルコトデアル。然シナガラ一般ニ肝油等ハ特ニ不快ナル味ヲ有スルモノデアルカラ小兒ハコレヲ食用スルコトヲ極端ニ嫌惡スルト同時ニ是レ等ノモノハ其ノ製造法及ビ材料ノ異ナルニ從ヒ「ヴィタミン」D ノ含有量モ等シク異ナルノデアツテ、從ツテ其ノ效果モ不定デアルコトハ免レ難イノデアル。此ノ點ニ關シテ紫外光線ノ照射ハ専門家に依リテ行ハル、ノデアルカラ其ノ

効果が常ニ確實デアツテ且ツ治療上ノ危険性ハ殆ンドナイト云フテモ差シ支ヘハナイノデアル。

著者ハ尙ホ自己ノ経験ト S. Colyer 氏, H. Gauvain, G. H. Maughan 氏等ノ實驗報告ニ基キ紫外光線ノ照射ガ口腔粘膜, 咽頭, 氣管等ノ粘膜ノ抵抗力ヲ増加シ且ツ齒齦緣炎ノ齒槽膿漏等ニモ著效アルヲ論ジ且ツ佝僂病ノ治療及ビ豫防等ニモ大ナル效果ヲ有スルコトヲ力説シテタルノデアル。尙モ或ル種ノ矯正手術ガ齒槽膿漏ノ遠因トナルコトガアルトスレバ矯正手術中ニ紫外光線ノ照射ヲ行フコトハ一層有意義ナモノトナルト論ジテタルノデアル。此レヲ要スルニ著者ハ矯正手術中ノ患者ニ時々紫外光線ノ照射ヲ行フ時ハ骨ノ正常ナル發育ヲ促進セシムルト同時ニ口腔粘膜ノ抵抗力ヲ増加シ齒齦緣炎又ハ齒槽膿漏ヲ誘發スルコトヲ防止シ得ルモノデアルト論ジラル。

(高橋)